

暑中お見舞い申し上げます。

コロナ感染が冷めやらぬ中、梅雨に入り線状降水帯の発生により長時間、九州地方を中心に猛烈な豪雨に見舞われ、特に熊本県では球磨川の氾濫により人吉市をはじめとする広い地域において水害が頻発し多くの犠牲を強いられており、いまだに復旧の目途が立っていない状況にあります。

このような状況は『令和2年7月豪雨』と称することになりましたが、**私たちの長崎県においても多くの被害が発生いたしました。**

7月14日現在、対馬市で1名の方がお亡くなりになり、県内各地においては住家の一部損壊3棟、床上浸水20棟、床下浸水163棟をはじめ河川、道路などの土木施設災害の発生、特に諫早市でも農地農業用施設及び農作物、ハウス等施設にも多くの被害が及んでいます。



被災された皆様には謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興復旧をご祈念申し上げます。

一方新型コロナウイルス感染症については緊急事態が解除され、県境を超えて往来ができる状況になり、経済も人の生活もニューノーマルの社会において
活力が甦るかに思えました。

しかし東京においては1日当たり過去最高の感染者が発生する状況になり、
わが長崎県でもクルーズ船を除き4月17日から感染者ゼロが約3か月程続き、
県民の皆様も安堵しておられましたが、長崎市においてクラスターが発生し、
諫早市を含め県内各地域においても新規感染者が多数発生しています。
感染された方々の早期快復を願うと共に、何としてもこれ以上の感染拡大を
防止しなければなりません。

私たちの身近なところまで、新型コロナウイルスは忍び寄っています。ソーシャルディスタンスを心掛け自分の身は自らしっかり守り、密の状況を避け、マスクと手洗いを励行して、これからの猛暑を元気いっぱい乗り切ってください。



令和2年7月